

秘

海軍公報 第四九七〇號

〇令 達

内令第二五七號

除隊編制中左ノ通改定セラレ

和二十年三月二十五日

海軍大臣

第百四十五號、第百四十六號、レヲ削リ同
項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三十一輸送隊 第十七號、第十八號、第百四十五號、第百四十六號

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第二五八號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月二十五日

海軍大臣

鎮海防備隊ノ項魚雷艇ノ欄ニ「第百二十號軍艇(佐)、第百二十
一號軍艇(佐)、第百二十二號軍艇(佐)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

秘海軍公報 第四九七〇號 昭和二十年三月二十九日

昭和二十年三月二十九日(木)



海軍大臣官房

横濱警備隊

官房人機密第一八五號
昭和十九年官房人機密第一八五號
「横濱警備隊」ニ改ム

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

官房經機密第一九〇號

昭和十五年官房機密第四一六二號中「家族手当相當額」ノ下ニ
「(加給ヲ含ム)」ヲ加フ

本令ハ昭和十九年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和二十年三月二十七日

海軍大臣

(参照) 昭和十五年官房機密第四一六二號ハ兵ニシテ扶養家族アル
者ニハ賞與支給ノ際家族手当支給額ヲ賞與ニ加算シ支給ス
ル件ナリ(海軍機密會計法規類集三〇〇頁)

官房教機密第一五五號

左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル召集直後ノ兵
科豫備將校艦船配乗講習ヲ施行ス

昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

1980

講習場所	講習員数	講習期間
海軍對潛學校 海軍少尉 (候補員)	約一〇〇名	昭和二十年四月十五日 日應召參著後約一月間
横須賀海軍機關學校	右約五〇名	
大楠海軍機關學校	同 右約三〇名	
備考	講習員ハ講習期間中海軍對潛學校及横須賀、大楠海軍機關學校附トス	

〇通牒

官房人機密第一八四號

昭和二十年三月二十七日

海軍次官

各海軍監理長殿

海軍管理工場在籍者等ノ戰時災害ニ因ル死歿者ニ對スル身分取扱ノ件改正ノ件通牒

昭和十七年官房機密第八七〇五號中左記ノ通改正セラレ候

記

本文中「海軍ノ管理ニ係ル工場事業場ニ在籍スル者」ヲ「軍需會社法ニ依ル海軍所管軍需會社及海軍ノ管理監督ニ係ル工場事業場ニ於ケル在籍者、勤勞學徒（勤勞學徒ノ監督指導ニ當ル學校教職員ヲ含ム）、女子挺身隊員」ニ改メ「及國民徵用令第四條第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル工場事業場ニ徵用セラレ主トシテ海軍ニ關聯スル業務ニ従事スル者」ヲ削ル

（内令提要卷二、五八頁參照）

軍需機密第二一二號

昭和二十年三月二十七日

海軍省軍需局長

關係各監理長殿

艦營需品供給ニ關スル件申進

戰局竝ニ戰訓ニ鑑ミ左記艦營需品ハ任務行動等考慮ノ上増額供給セラルル内意ニテ目下準備中ニ付所要ノ向ハ各海軍軍需部ニ請求相成度

追テ供給數ニ關シテハ海軍省軍需局ニ協議相成度尙之方整理ハ艦營需品經理規程第十三條ノ規定ニ依リ處理セラレ度

記

品名	摘要
移 動 唧 筒	主トシテ水道消火檢設備ナキ部隊ヲ援
蛇 管 接 手	先トス
龍 器 先	一、二個
筒 ム 蛇 管	一個
ゴ ム 蛇 管	二個
厚 布 蛇 管	移動唧筒一臺ニツキ
唐 鶴 嘴 鐵	三六米
防 火 手 頭 具	
防 火 袋	
防 火 服	
防 火 靴	
防 火 帽	
防 火 手套	
防 火 器具	

1981

折 床 ヲ 口 二 號
 池 沫 式 消 火 劑 一 號
 同 池 沫 消 火 器 二 號
 池 沫 消 火 劑
 特 殊 強 力 粉 沫 消 火 劑

備考
 軍務一機密第五九二號別表第一應急用器材供給艦船ニ對シテハ該當セズ

經給機密第三七號

昭和二十年三月二十七日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

兵ノ臨時家族手当相當額支給ニ關スル件申改
 正ノ件通牒

昭和十六年經給機密第一〇號中左ノ通改正致候

「家族手当相當額」ノ下ニ「(加給ヲ含ム)」ヲ加フ

(參照) 海軍機密會計法規類集二九九頁

○ 雜 款

○司令海防艦指定

第一海防隊司令ハ二月二十六日司令海防艦ヲ第十三號海防艦ニ指定セリ

○疎開等ニ因ル施設移築新設ノ場合ニ於ケル連絡ニ關スル件最近各部ニ於テ疎開等ノ爲當警備區域内ニ施設ヲ移築新設セラ
 ルル場合當隊ニ連絡スルコトナク實施シツツアル向アルヤニ仄
 開致候處斯クテハ警備實施上竝ニ對外關係上齟齬ヲ生ズル虞アル
 ニ付同計畫アル向ハ成ルベク速ニ其ノ位置、面積施設ノ種類、
 收容人員數、所有兵器及當隊トノ連絡方法等ニ關シ差支ナキ範
 圍ニ於テ左記宛通知ヲ得度

追テ調査員等ヲ當隊ニ立寄ラシメラレバ便宜供與竝ニ憲兵
 隊等トノ連絡上好都合ト存候尙當警備區域ハ靜岡縣(但シ
 安部川以東)及山梨縣ニ有之候

靜岡縣駿東郡清水村

電 話 (三) 沼津 一四四六番
 島 津 二〇一番

(沼津警備隊)

○隊名呼稱

自今當艦隊(司令部)ヲ海軍稜部隊(司令部)ト呼稱ス
 (第十航空艦隊司令部)

○開隊

部 隊 名	所 在 地	開 隊 日 月	記 事
宇和島海軍航空 隊(舊松山海軍 航空隊宇和 島分遣隊)	愛媛縣宇和島市	三月一日	順路 宇和島線宇和島驛下車二 軒(徒步約二十分)

○追加

三月八日秘海軍公報第四九五二號令達欄内令第一九一號及内令

第一九四號各末尾ニ「第一特別基地隊」ヲ「第二特攻戰隊」ニ改ム」ヲ追加ス

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
四月四日 一〇〇〇	故海軍中將石井藝江外諸勇士	横須賀海軍人事部長	横須賀市海軍靈安所		佛式
四月六日 一三〇〇	故海軍大尉山本清一郎外諸勇士	大湊海軍人事部長	青森市公會堂		同
四月七日 一〇〇〇	故海軍軍醫少將村田三郎外諸勇士	金澤地方海軍人事部長	金澤東本願寺別院		同
四月九日 一〇〇〇	故海軍大尉長 吉次郎外諸勇士	新潟地方海軍人事部長	新潟市公會堂		同
四月十一日 一〇〇〇	故海軍中佐岡部 猛外諸勇士	山形地方海軍人事部長	山形市第四國民學校		同
四月十二日 一三〇〇	故海軍中佐岡田英雄外諸勇士	札幌地方海軍人事部長	札幌市東本願寺		同

○本日軍極秘海軍公報第一〇七號(乙配付)發行セリ
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

1983

秘

海軍公報 第四九七一號

昭和二十年三月三十日(金)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二五九號(軍機秘海軍公報第一〇七號(乙配付)ニ掲載)

内令第二六〇號

伊號第二百六潛水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

内令第二六一號

臨時魚雷艇訓練所規程ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

(内令提要卷一、四一頁参照)

官房第一五三號

海軍省醫務局資材班規程左ノ通定ム

昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

海軍省醫務局資材班規程

秘海軍公報 第四九七一號 昭和二十年三月三十日

第一條 當分ノ間海軍省醫務局ニ資材班ヲ置ク

第二條 資材班ハ海軍省醫務局第一課ノ所掌ニ屬スル左ノ事務ヲ分掌ス

一 療品廠及病院ニ於ケル所掌ノ原摺及資材ニ關スルコト

二 醫務關係利用工場ニ於ケル所掌ノ原料及資材ニ關スルコト

三 醫務關係工場ノ調査、利用及生産力擴充ニ關スルコト

四 年度物動計畫ノ調査ニ關スルコト

第三條 資材班ニ班長及班員ヲ置ク

第四條 班長及班員ハ海軍省醫務局ノ職員ノ中ヨリ海軍省醫務局長之ヲ命ズ

第五條 班長ハ海軍省醫務局長ノ命ヲ承ケ班ノ事務ヲ掌理ス

第六條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス

官房機密第一五七號

昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

横須賀、吳、佐世保鎮守府司令長官殿

臨時水雷術講習施行ノ件訓令

首題ノ件左記ニ依リ實施スベシ

三二七

1984

記

講習科目	講習期間	講習員	講習場所	講習指導官	實施細目
一 艦艇乗組員 二 艦艇乗組員 三 艦艇乗組員 取ノ撥法	四月月上旬 自四月十二日 至四月十六日 自四月十八日 至四月二十二日	艦艇隊長 及關係 准士官 以上並 以下士 官及兵	横須賀	海軍水雷學校 職員適宜	左ノ外各領守府司令 長官所定 一 講習ハ准士官以 上並ニ以下士官及兵 ニ分テ實施ス 二 艦艇使用ノ講習 ニ於テハ魚雷ヲ實 射スルモノトシ本 講習用準備魚雷標 準各領守府十本ト ス

官房第五二號
海軍給與令施行細則第四百六條第一項ニ依リ購買スル糧食品
代價等ニ關シ昭和二十年度間左ノ通定ム

昭和二十年三月二十八日

海軍大臣

- 一 代價ハ時價ニ依ル但シ品位ハ中等品ヲ標準トス
- 二 購買ヲ爲シタルトキハ其ノ品目、數量、單價、代價、購入
地及供給者氏名ヲ各月毎ニ所屬海軍軍需部ヲ經テ海軍省軍需
局ニ通報スルモノトス

通牒

軍務三機密第一三七號

昭和二十年三月一日

關係各廳長殿

海軍省軍務局長
海軍省人事局長

船員動員令ニ依ル海軍軍屬ノ徵用ニ關スル件
通牒

首題ノ件ニ關シ關係各省次官間ニ於テ別紙ノ通協定實施ノコト
ニ定メラレ候條了知相成度

(別紙)

協定書

陸海軍軍屬ニシテ船員動員令ニ依ル職業能力申告ノ要申告者タル者ニ對スル船員トシテノ徵用(同令第五條第三項ノ場合ヲ除ク)ニ關シ陸軍省、海軍省及運輸通信省間ニ左記各條ヲ協定ス
昭和二十年二月九日

陸軍次官 柴山兼四郎
海軍次官 井上 成美
運輸通信次官 長崎惣之助

記

第一條 船員動員令ニ依ル要申告者ニ付職業能力ノ申告ヲ爲サシムルニ際シ右該當者ニシテ陸海軍軍屬タル場合ニ於テハ申告ニ當リ軍屬トシテノ採用年月日現在從事スル業務ノ内容其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ詳細附記(但シ軍ノ機密ニ關スル

事項ヲ除ク)ノ上所屬長ニ於テ取廻メ陸軍省又ハ海軍省ヲ經由シ中告ヲ爲サシムルモノトス
所屬長ハ前項ノ中告ニ際シ船員トシテノ徵用ノ可否ニ關シ意見ヲ附記スルモノトス

第二條 運輸通信省ハ前條ノ規定ニ依リ中告ヲ爲シタル陸海軍軍屬ヲ船員トシテ徵用セントストキ(船員勳員令第五條第三項ノ場合ヲ除ク)ハ陸軍省又ハ海軍省ニ對シ徵用ノ可否ニ付協議スルモノトス

第三條 陸軍省又ハ海軍省ハ前條ノ協議ヲ受ケタル場合ハ軍務上特ニ必要アル場合ノ外其ノ徵用ニ應スルモノトシ之ヲ所屬長ニ通達ス

第四條 運輸通信省ハ前條ノ規定ニヨリ協議成立シタル者ニ付テノミ出頭要求書ヲ發スルモノトス

第五條 所屬長其ノ屬スル軍屬ニシテ本協定書ノ定ムル所ニ依リ出頭要求書ヲ受ケタル者アルトキハ徵用ノ銓衡ヲ受ケシメ其ノ徵用ニ應スルモノトス

第六條 運輸通信省ハ徵用銓衡ノ結果徵用決定シ本人ニ徵用令書ヲ發シタルトキハ其ノ旨陸軍省又ハ海軍省並ニ所屬長ニ通報スルモノトス

○雜 款

司令驅逐艦指定

第五十二驅逐隊司令ハ一月六日司令驅逐艦ヲ杉ニ指定セリ

○十版内令提要追録第二十三號(二十年一月三十一日現在)三月二十三日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度
(海 軍 省 副 官)

○艦隊例規ニ關スル件

第一艦隊例規、機密第一艦隊例規及軍艦例規ハ從來横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍軍需部ニ供給方依頼致置候モ自今當司令部ヨリ供給可致ニ付必要ノ向ハ直接當司令部宛請求相成度
(聯合艦隊司令部)

○試験問題發送

昭和二十年五月第五期海軍幹部練習生銓衡試験(昭和二十年五月一日施行)問題ハ三月三十一日附各艦隊、鎮守府、警備府、海上護衛總司令部及海軍經理學校宛發送済ニ付未着又ハ他ニ所要ノ向ハ海軍省教育局ニ請求相成度
(海 軍 省 教 育 局)

○移轉

海軍航空本部會計部ハ二月二十四日海軍省第三分室(東京都目黒區大岡山東京工業大學内)ニ移轉セリ

一 順 路

(イ) 海軍省方面ヨリ

(一) 海軍省定期自動車ニテ第三分室前下車徒歩約五分
(二) 目蒲線大岡山驛下車南口ヨリ徒歩約三分

(ロ) 横須賀方面ヨリ

東横線田園調布驛ニテ目蒲線ニ乗換ヘ大岡山驛下車

二 電 話

當分ノ間荏原(08)「四〇〇八」又ハ「六六〇〇」ニテ東京工業大學ヲ呼ビ出シ内線交換ノ三五番(部員用)、三四番(屬員用)ヲ利用ノコト

海軍専用電話ハ目下架設中

三 郵便物

當會計部宛ノモノハ右移轉先ニ直送相成度

(海軍航空本部)

當部ハ三月十七日兵庫縣西宮市中字目神山三丁目(通稱甲陽園)ニ移轉セリ(從來ノ大阪市堂島廳舎ニハ大阪連絡室(電話北九七五番)設置シアル)

順路 京阪神急行神戸線夙川經山甲陽園下車徒歩約三分

電話 西宮 三七九番

(大阪海軍施設部)

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
第一三二海軍航空隊	臺灣臺南州臺南航空基地内	二月五日		開隊
第六十二號海防艦艇裝具事務所	尾道市外日立向島造船所第二工場内	三月二五日		
第二航空艦隊司令	佐世保鎮守府殘務整理班内	三月二六日		

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記事
驅逐艦推機裝具事務所	三月一三日	
驅逐艦製機裝具事務所	三月一五日	

○訂正

三月二十三日附秘海軍公報合同海軍葬儀執行日時前橋地方海軍人事部ノ部「四月二十八日」ヲ「四月二十六日」ニ訂正ス

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九七二號

昭和二十年三月三十一日(土)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二五六號

佐世保鎮守府在籍

海防艦 伊 王

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月二十四日

海軍大臣

内令第二六二號

第二百二十六號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第二百二十六號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

官房需機密第八四號

大東亞戰爭中艦營需品又ハ燃料ヲ亡失シタル場合艦營需品經理

規程第二十九條又ハ燃料經理規程第三十三條ノ規定ニ依ル亡失

秘海軍公報 第四九七二號 昭和二十年三月三十一日

證明書ハ離權票ヲ以テ之ニ代リヨトヲ得

昭和二十年三月二十九日

海軍大臣

官房需機密第一九三號

戰地用酒保物品取扱手續左ノ通定ム

昭和二十年三月二十九日

海軍大臣

戰地用酒保物品取扱手續

第一條 戰地用酒保物品ノ取扱ニ關シテハ本手續ノ定ムル所ニ

依ル

第二條 本手續ニ於テ戰地用酒保物品ト稱スルハ戰地ニ於テ要

スル酒保用品ニ充當スル爲特ニ臨時軍事費ヲ以テ取得シタル

通常物品ヲ謂フ

第三條 戰地用酒保物品ノ品種ハ酒保設置規程第八條ノ規定ニ

依ルモノトシ其ノ取得ハ海軍省經理局長ノ定ムル戰地用酒保

物品取得計畫ニ基キ之ヲ爲スモノトス

第四條 戰地用酒保物品ノ取得及賣拂ニ關スル契約擔任官等ハ

左ノ區分ニ依ル

一 契約擔任官

契約擔任官	契約事項
海軍省經理局長 海軍經理部(支部)長 特設海軍經理部(支部)長 艦船部隊其ノ他各部ノ主計長又ハ首席主計科士官	戰地用酒保物品ノ取得及賣拂並ニ之ニ附随スル事項但シ戰地用酒保物品ノ補給擔任處所在ノ地方ニ於ケル取得ハ同廳ノ契約擔任官ニ於テ集中契約ヲ爲スヲ例トス

二 歳入徴收官、收入官吏及收入取扱區分

歳入徴收官	收入官吏	收入取扱區分
海軍省經理局長 海軍經理部(支部)長 艦船部隊其ノ他各部ノ主計長又ハ首席主計科士官	海軍省經理局長 特設海軍經理部(支部)及艦船部隊其ノ他各部ノ主計長又ハ首席主計科士官	戰地用酒保物品ノ賣拂代金

三 支出官、支拂擔任官及支拂取扱區分

經費區分	支拂擔任官	支拂取扱區分
普通經費	海軍省經理局支出官 海軍經理部(支部)支出官	戰地用酒保物品ノ取得代金及之ニ附随スル經費
艦隊經費	特設海軍經理部(支部)及艦船部隊其ノ他各部ノ主計長又ハ首席主計科士官	

四 歳入科目

五 歳出科目

款、項	目	節
軍資金	雜收入	
臨時軍事費	購入諸費	
特殊用品購入費		
		會計科目電信略號
		エ
		ウ

第五條 戰地用酒保物品ノ補給擔任處並ニ出納命令官及會計官吏等ハ左ノ區分ニ依ル

補給擔任處	出納命令官	會計官吏
海軍省經理局長 海軍經理部(支部)長	海軍省經理局長 海軍經理部第三課長	海軍省經理局長 海軍經理部(支部)部長

備考

一 海軍省經理局長ニ於テハ主シテ各海軍經理部(支部)ニ對スル供給ヲ爲シ各海軍經理部(支部)ハ他ノ補給擔任處又ハ艦船部隊其ノ他各部ニ對スル供給ヲ爲スモノトス

二 戰地ニ在リテハ軍需品補給基地ニ於ケル陸上各處ノ一ヲ補給擔任處ニ指定シ當該地方ノ戰地用酒保物品ノ補給ニ從事セシムルコトヲ得

三 前項ノ指定ハ所屬長官之ヲ爲シ其ノ旨關係各部ニ通知スベシ之ヲ變更シタル場合亦同シ

四 會計官吏ハ出納命令官之ヲ命ジ其ノ旨報告スベシ

特設海軍經理部(支部)及艦船部隊其ノ他各部ニ在リテハ部長又ハ主計長ヲ取扱主任トス但シ主計長ヲ置カザル艦船部隊其ノ他各部ニ在リテハ必要ニ應ジ所屬長部下主計科

准士官以上ニ取扱主任ヲ命ジ其ノ旨關係各部ニ通知スベシ
之ヲ免ジタルトキ亦同シ

第六條 戰地ニ在リ又ハ戰地ニ向フ艦船部隊其ノ他各部（以下各隊ト稱ス）ハ必要ニ應ジ戰地用酒保物品ヲ補給擔任應及最寄各隊ヨリ供給ヲ受ケ又ハ直接購買シ之ヲ所屬酒保ニ賣拂フコトヲ得

前項ノ賣拂價格ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ル

第七條 戰地用酒保物品ノ出納受拂ノ諸票ハ品別毎ニ之ヲ調製セズ内譯書ニ依ルコトヲ得又前條ノ規定ニ依ル直買物品ニ付テハ原簿登記ヲ省略スルモノトス

第八條 取扱主任ハ適宜ノ帳簿ヲ備ヘ戰地用酒保物品ノ受拂ヲ登記スベシ

第九條 各隊ニ於テ戰地用酒保物品保有ノ必要ヲ認メザルニ至リタルトキハ取扱主任ハ之ヲ最寄ノ補給擔任應ノ會計官吏又ハ取扱主任ニ還納又ハ送付スベシ

第十條 取扱主任交替ノトキハ戰地用酒保物品ノ現品ト受拂簿トヲ對照シ其ノ引繼ヲ了シ受拂簿ニ捺印シ之ヲ授受ヲ明カニスベシ

第十一條 戰地用酒保物品ニ關スル報告（通報）ノ提出（送付）ハ左ノ區分ニ依ルモノトス

書類名	様式	提出	提出	提出
	（送付）	（送付）	（送付）	（送付）
	部數	期	日	先
				（送付）
				調整者

祕海軍公報 第四九七二號 昭和二十年三月三十一日

考	戰地用酒保物品ノ受拂報告	様式第一	各四分	各期經過以後十五日	海軍省經理局長及海軍會計主任
	戰地用酒保物品ノ失失報告	様式第二	各一	各四分	海軍省經理局長及海軍會計主任
備	一 報告提出先タル海軍經理部長ノ區分ハ海軍會計監督規程ニ定ムル所ニ依ル	各一	各四分	各期經過以後十五日	海軍省經理局長及海軍會計主任
	二 本報告ノ提出ニ關シテハ取扱主任ハ會計官吏ヲ經由スルコトナク之ヲ直送スルモノトス	各一	各四分	各期經過以後十五日	海軍省經理局長及海軍會計主任
考	三 輸送艦船等ニ托送中ノ戰地用酒保物品ノ失失（毀損）ニ對シテハ發送完會計官吏（取扱主任）ニ於テ輸送責任者ノ證明書ニ依リ報告ヲ調製スルモノトス	各一	各四分	各期經過以後十五日	海軍省經理局長及海軍會計主任
	四 戰地用酒保物品ノ失失（毀損）ニ對シテハ發送完會計官吏（取扱主任）ニ於テ輸送責任者ノ證明書ニ依リ報告ヲ調製スルモノトス	各一	各四分	各期經過以後十五日	海軍省經理局長及海軍會計主任

第十二條 戰時用酒保物品ノ授受保管等ノ取扱ニ關シテハ必要ニ應ジ財團法人海仁會ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得

附則
本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
（別紙添）

○ 通 牒

海人三機密第一號ノ七八
昭和二十年三月二十八日

海軍省人事局長
海軍省教育局長

各鎮守府參謀長殿

1990

普通科電信術練習生不適者中掌暗號兵又ハ掌電測兵ニ適スル者ノ取扱ニ關スル件申進
首題ノ件左記ノ通定メラレ候
追テ本件實施ニ伴ヒ昭和十八年海人機密第一號ノ一九三申進ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

記

一 在籍鎮守府司令長官ハ普通科電信術練習生ニシテ適性不良等ノ事由ニ依リ同練習生タルニ適セズト認ムル者ノ中掌暗號兵又ハ掌電測兵タランコトヲ志願シ且適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ普通科暗號術練習生又ハ普通科電測術練習生ニ採用スルコトヲ得但シ採用員數ハ當該年度ニ於ケル告達員數外トス

二 横須賀海軍通信學校長又ハ防府海軍通信學校長ハ前號ニ該當スル者ニ對シ適當ト認ムル採用期別、入校期日及事由ヲ附シ速ニ本人ノ在籍鎮守府司令長官ニ具申ス
各學校長ハ其中ニ先チ各當該練習生ノ教育廳長ト連絡シ必要ナル具申事項ヲ決定スルモノトス

三 普通科暗號術練習生又ハ普通科電測術練習生ニ採用セラレ入校スル迄ハ別ニ命課ヲ用ヒズシテ現ニ勤務スル海軍通信學校ニ練習ノ爲定員外トシテ配置セラレタルモノト看做ス

○雜 款

○事務開始

○本日海軍公報發行セズ

事務所名	設 置 場 所	事務開始日	電 話	記 事
第三百六設營隊	愛知縣東春日井郡水野村海戸高等女學校内	一月二七日		一 紀場所ニ移上 二 旅行順路ヲ 名古屋驛ニテ 名古屋驛ニテ 戸線ニ乗換ヘ 横山驛下車
東京海軍監督官事務所横濱出張所	横濱市中區本町三丁目二八 (横濱銀行集會所内)	三月二九日		
第陸軍艦隊司令部残務整理班	門司市イ三六司令部内	三月二五日		
海軍施設本部内		三月二五日		三月二五日解隊

○事務所撤去

事 務 所 名	撤去月日	記 事
伊萬里灣在勤海軍武官府残務整理班	二月一六日	
第百七十二號輸送艦裝具事務所	三月一〇日	
波號第百九潜水艦裝具事務所	三月一〇日	

(官房経機密第一九三號第一様式)

(昭和二十年三月三十一日秘海軍公報)

1992

番 號

昭和 年 月 日

(會計官吏
取扱主任) 職 官 氏 名

海軍省經理局長
(何々海軍經理部長) 殿

自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日 戰地用酒保物品受拂報告

摘 要	受 入					拂 出					残	備 考
	越高	買入	供給受	何々	計	賣拂	供給拂	亡失損	何々	計		
煙 草												
飲 物 類												
食 物 類												
日 用 品 類												
合 計												

備 考 1. 物品ノ金額ハ海軍省經理局長所定ノ單價ニ依ルモノトシ其ノ應ニ於テ調達取得シタル物品ニ付テハ實際ノ買入價格ヲ備考欄ニ附記スベシ

2. 亡失毀損ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル亡失(毀損)報告ノ番號ヲ備考欄ニ記載スベシ

(官房機密第一九三號第二様式)

昭和 年 月 日

(昭和二十年三月三十一日海軍公報)

海軍省 經理局長 又ハ
海軍 經理部 長 殿

廳名 戰地用酒保物品會計官吏 (取扱主任) 職官 氏

名 國

戰地用酒保物品亡失 (毀損) 報告

- 一 物品ヲ亡失 (毀損) シタル日時及場所
- 二 亡失 (毀損) シタル物品ノ品名、數量、單價、代價
- 三 當時ニ於ケル物品保管ノ狀況
- 四 物品亡失 (毀損) ノ原因タル事實ノ狀況

1993